



背伸びの効用

図書館長 坂野明子

最近、授業をしていて強く感じるのは、学生たちの中の「考えるのは面倒」、「できれば考えないで済ませたい」という気配です。それは手元にあつてすぐに解答を与えてくれるスマホがもたらしたものであることは間違いないでしょう。

コインを入れ、ボタンを押せばすぐに商品が出てくる自動販売機にも似たスマホは本当に便利です。ただ、それは明らかに「考える意欲」、「考える力」を減退させていくものです。

昔、私が中学生や高校生だった頃、私も含め、ニーチェがどうの、構造主義がどうのと、わかりもしないことを語る「背伸びの生意気」人間がたくさんいました。

ただ、「背伸び」するためにはそれなりの努力が必要で、まずは本を読み、本の中の見知らぬ言葉を調べ、提示されている概念についてわからないなりに一生懸命考えました。つまり「調べ、考え、咀嚼しよう」と務めたのです。それが結果として人生の何の役に立ったかと訊かれると答えに窮しますが、「精神的筋力」は多少なりともついたように思います。

昨年の秋、SNS が引き起こしたおぞましい犯罪が大きく報道されました。自殺願望を抱くほど悩んだ被害者たちですが、SNS の世界に答えを求める前に、「考える」ことによって得られた「精神的筋力」が彼女たちに少しでもあったなら・・・とつい思ってしまいます。もちろん、それがすべてを解決はしてくれないにしても少なくともまっしぐらに罠に落ちていくようなことはなかったのではないかと考えるのです。

皆さんもちょっと背伸びして、「身の丈にあった」ではなく、「身の丈より少し上」の普段は敬遠しているような本を手にとってみませんか。読み、考え、時には考えあぐねることで「精神的筋力」が鍛えられる筈です。そしてそれは長い目でみたらきっと人生のプラスになると思います。